

ダイズのカメムシ類

1 形態と生態

ダイズには多くの種類のカメムシが飛来し、口針を植物体に突き刺して汁を吸います。加害する植物部位から、茎葉吸汁型カメムシ類と子実吸汁型カメムシ類の2つのタイプに分けられます。これらのカメムシ類は成虫で越冬し、落ち葉などの中に潜んでいます。基本的に年一世代で、産卵期の長いことが特徴です。

(1) 茎葉吸汁型カメムシ類

ア マルカメムシ(写真1)

体長5mm内外で黄銅色の丸形をしており、マメ科植物を加害します。ダイズの生育初期から飛来し、産卵をしながら、成虫と幼虫が長期間茎葉を加害します。子実吸汁型カメムシ類と比較して、被害は少ない害虫です。マメ科のクズやフジの新芽で容易に発見できます。

(2) 子実吸汁型カメムシ類

ア 共通事項

越冬後成虫は、各種植物の子実を吸汁します。ダイズ畑には莢の伸長期から飛来し、産卵して成虫と幼虫が子実を吸汁します。埼玉県内で特に大きな被害を及ぼす種類は、アオクサカメムシとホソヘリカメムシです。

イ アオクサカメムシ(写真2)

成虫は体長13mm内外で緑色が基本ですが、黄色型も出現し、幼虫の色彩も変化に富んでいます。各種植物の果実を吸汁します。

ウ ホソヘリカメムシ(写真3)

成虫は体長15mm内外で褐色の細長い形態をしています。多くのマメ科植物の子実を吸汁するので、ダイズ畑の周囲にマメ科雑草が繁茂している場合は、多発する恐れがあるため、注意が必要です。幼虫、成虫ともに活発に活動します。

エ イチモンジカメムシ(写真4)

成虫は体長10mm内外の淡緑色～淡黄褐色をしており、前胸背に一文字の淡紅色の斑紋が入ります。マメ科植物に依存して生活します。成虫の体長は16mm内外で、暗褐色の体色に小さな斑紋が存在します。サクラの果実などに始まり、多くの果実を吸汁します。

オ クサギカメムシ(写真5)

成虫の体長は16mm内外で、暗褐色の体色に小さな斑紋が存在します。多種の果実を吸汁します。



写真1 マルカメムシ成虫



写真2 アオクサカメムシ(左から幼虫・黒色型、同・緑色型、成虫)



写真3 ホソヘリカメムシ(左:幼虫、右:成虫)



写真4 イチモンジカメムシ成虫



写真5 クサギカメムシ成虫

2 被害の様子

莢伸長期や子実肥大期に吸汁されると、子実が肥大しないために莢が板状の「板莢」になります(写真 6)。また、子実への養分転流が抑制されるため葉の黄変が遅く、成熟期を過ぎても葉柄が付いています(写真 7)。肥大期以降の口針挿入では、その部位が食痕として変色します(写真 8)。



写真 6 子実肥大期の食害



写真 7 被害株



写真 8 子実肥大期以降の食害痕

3 発生について

(1) 発生条件

山林や河川敷等、周囲に雑草が多い地域のダイズ畑で多発します。

(2) 発生消長

ダイズ畑での子実吸汁型カメムシ類は、越冬世代成虫が開花時期頃から飛来します。その後、第1世代幼虫、第1世代成虫が出現し、成虫は周囲の越冬地に移動します。

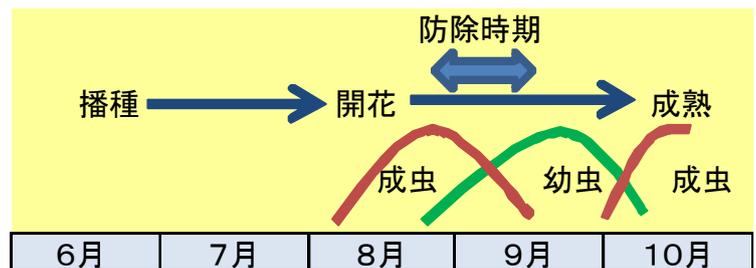


図 1 ダイズのカメムシ類の発生消長

4 防除時期と防除方法

(1) 耕種的防除

開花時期の遅い品種の導入や播種を遅らせることにより、子実吸汁型カメムシ類の飛来を軽減できます。

(2) 薬剤防除

ダイズほ場及びその周囲のカメムシ類の発生密度や発生時期を把握して、開花 20 日～40 日後に散布します。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当 TEL048-536-0409